

摺上川源流域

摺上川の源流帯は、福島市と宮城県七ヶ宿町にまたがる地域である。その中で稲子沢、後沢、板谷沢、大沢などの諸沢が比較的大きなものである。地域的にはかなり広いが、沢は全体に平凡なものが多い。しかし、中には大スリバチ沢などのようにナメの発達しているものもある。

遡行対象としては、あまりめぼしいものはないが、板谷沢及び大スリバチ沢のナメにはみるべきものがある。

いわゆる「伊達の無理押し」というやつで、江戸時代の領地争いで仙台藩が勝訴した結果、摺上川流域のほとんどが福島市所属なのに、稲子部落を中心とした地域だけが宮城県に

所属することとなった。分水嶺を乗り越えてここだけが宮城県の版図である。冬には孤立する稲子の部落には、稲子峠を超えて役場が雪上車で物資を補給するという。

ブナを中心とした深い樹林帯に覆われていたこの地域も、営林署の手で伐採が進行してきた。後沢の流域など、場所によっては無残な伐採跡地をさらしている所もある。原生林といえるような樹林帯はほとんど存在しなくなった摺上川流域ではあるが、森林資源は豊かである。その豊かな自然のなかでクマやカモシカ、ニホンザルなど、たくさん

